

「共に学び、共に育つ」 特別支援教育の推進

岩手県の特別支援教育の方向性を示す「いわて特別支援教育推進プラン（2024～2028）」は、「つなぐ～就学前から卒業後までの一貫した支援の充実～」、「いかす～各校種における指導・支援の充実～」、「支える～教育環境の整備・充実・県民理解の促進～」の3つのキーワードによる施策の方向性と具体的施策により構成されています。県南教育事務所では、「共に学び、共に育つ教育」の理念のもと、支援を必要とする児童生徒一人ひとりに対する教育的ニーズにきめ細かく応える支援体制を整備し、個々のもてる力を伸ばしていくことを目標として、以下の研修会を実施しました。

特別支援教育担当ステップアップ研修講座Ⅰ（前期）

東山地域交流センター
(R6.6.3)

本研修は、今年度、初めて特別支援教育担当になった先生方を対象に行われる研修です。(39名参加)

初めに奥州市立南都田小学校の三上千寿子教諭による自閉症・情緒障がい特別支援学級の授業をVTRで視聴しました。視聴を通して、児童の実態に合わせ、温かくきめ細やかに支援することや、自己肯定感を高める指導の大切さについて学ぶことができました。グループ協議では担当の障がい種別に分かれて先生方の指導・支援について意見交流を行い、中核コーディネーターや支援学校の先生方から助言をいただき、明日からの指導に生かせる様々な支援方法について理解を深めることができました。



【単元名「自分を知ってパワーアップ」(自立活動)】
友達とかかわりながら、肯定的な表現を使って「パワーアップかるた」を作る授業

【授業の感想】

- 児童の特徴やその日その時に合わせた指導・支援の必要性がわかった。本時の授業に至るまで、先生が一人一人に目を向け、よさや課題を見いだしたからこそ、児童が安心して取り組むことができるのだと実感した。
- 児童が多様な言葉を得られるように工夫されていたこと、自己決定を大切にしていることがよくわかりました。
- 先生の肯定的な受け止めが学級の安心感を生み出していた。本人が決めたことを尊重し、自分で決めたことをほめるということをしていきたい。
- 児童の率直な意見を受け止める、肯定的な言葉かけを行いながら、児童ができそうな目標を児童が決めるということを大切にしていきたい。
- 学習の場を変える、ペアを変えることで、気持ちや活動の切り替えができることを学んだ。

講義『障がいの基本的理解と「個別の教育支援計画」の活用について』

(県南教育事務所 伊藤 奏子 特別支援教育エリアコーディネーター)

- 「障がいを『もつ』」から「障がいが『ある』」という考え方へ。その人と周りの環境の間に障がいがあると考えることが大切。
- リフレーミングを行い、子どもの捉えを「よいところや得意なこと」に変換し、褒める機会を増やす。
- 自立活動については、今指導すべきことを見極め、現状から長期的見通しをもち、現在の目標を設定して段階的に指導、評価する視点を大切に。
- 幼児期から高等学校等卒業後まで一貫して、関係機関と連携しながら一人ひとりのニーズに応じた支援を行うことができるよう、個別の支援計画や引継ぎシートを作成し活用していく。

【協議から学んだこと(研修者の感想より)】

- 失敗や思い込みから次の一步を踏み出せない子が多くいるという現状を受け止めて、個々に合った課題の設定を行い、ステップを積み重ねて自信につながる支援をしていきたい。
- 生徒に自信をつけるために、本人のことをまるっと認められる関係づくりに励みたい。皆さんと話して、また前向きに明日から臨みたい気持ちになった。
- 目的やゴールを明確にして、一人一人が自己決定して進める力を養いたい。

児童生徒理解に基づいた適切な指導や必要な支援の充実、共生社会実現のための資料です。ぜひご活用ください。

● いわて特別支援教育推進プラン

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page/001/006/404/plan2024.pdf



● 引継ぎシート 作成・活用ガイドブック

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page/001/028/789/hikutugigaido.pdf



● 共に学び、共に生きるいわて

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page/001/062/892/tomonimanabito_moniikiruiwate.pdf

